

## 青森をアートでたどるプロジェクト

### 原 高史 <AOMORI MAPPINK MEMORY「記憶の未来」> 開催決定

| 実施：弘前れんが倉庫美術館、弘南鉄道 弘南線 車両、主要駅ほか

| 会期：2022年9月14日（水）—11月13日（日）



アート列車 車両のイメージ 秋 弘南線（平賀-柏農高校前）

エヌ・アンド・エー株式会社（代表取締役：南條史生）では今秋青森をアートでたどるプロジェクト 原高史 <AOMORI MAPPINK MEMORY「記憶の未来」>の企画制作を担当します。

2020年に開館した弘前れんが倉庫美術館を起点に、弘前駅と黒石駅を結ぶ弘南鉄道 弘南線を中心とした周辺エリアを、アートを通してめぐりながら、普段は目に触れることのない地域の魅力を顕在化し、再発見するアートプロジェクトです。

アーティストの原 高史は、地域の歴史をたどり、そこに

暮らす人々とコミュニケーションを重ねながら、土地の過去と未来をつなぐ言葉を紡ぎ出していきます。

プロジェクトでは、ねぶたやりんご栽培など、青森の風土に育まれた情熱やりんごの蕾を想起させる鮮やかなピンク色をテーマカラーとし、弘南鉄道 弘南線の1車両をタイムマシンに見立てたピンク色の“アート列車”が運行。弘前れんが倉庫美術館や駅舎もピンク色に染まり、地域の人々へのインタビュー映像などを上映します。美しい青森の景色の中を走るアート列車で、過去と未来を行き来し、場所の記憶や言葉から新しい価値や意味を考えていきます。

会期中は、アート列車の乗車や、周辺エリアへの周遊観光に最適なピンク色の一日乗車券 MAPPINK TICKET と、特別冊子 MAPPINK BOOK がセットになった「わのパス MAPPINK TICKET」を販売します。また連携企画として、2両編成となるアート列車のもう1車両の内装は、青森県立黒石高等学校情報デザイン科の学生によるデザインワークで彩られます。（アート列車の運行は1日9往復を予定 \*車両点検で運休となる日がございます。）

2020年より青森県では、県内にある5つの美術館・アートセンター（青森県立美術館、青森公立大学国際芸術センター 青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館）が、アートを通じて青森の魅力を発信する<5館が五感を刺激する—AOMORI GOKAN>がスタート。本プロジェクトにおいても、弘前れんが倉庫美術館を中心に、周辺エリアに足を伸ばし、アートを通して、土地の歴史や文化、記憶をたどりながら、街の魅力を再発見してもらい、滞在を促進することを目的にしています。

## 【キーワード】

### 1、MAPPINK TIME MACHINE

ピンク色に染められた“アート列車”が過去と未来をつないでいきます。

### 2、MAPPINK STATION

駅舎や待合室で上映する住民の方々のインタビュー映像から、未来を生きるための手がかりを探します。

### 3、MAPPINK TICKET & BOOK

アート作品をより楽しめるヒントと回遊性を促進する1日乗車券 MAPPINK TICKETと特別冊子 MAPPINK BOOKを作成します。

## メッセージ アーティスト 原 高史 | HARA TAKAFUMI

久しぶりに訪れた青森の季節は冬。

雪の弘南線から見る吹雪の中の無人駅、人のいない風景—。

冷えた体を温めたいと津軽尾上の大和温泉さんのお風呂に向かった。中に入ると、昭和のお風呂屋さんの空間とやさしい笑顔の番台さんに少しホッとさせられた。お風呂に浸かりながら辺りを眺めていると、さまざまな人が個性的にそれぞれのやり方で体を洗っている。

地元の人たちが集う洗い場はどこか怖さがあり、緊張感があった。青森人の生きる力を感覚的に感じ取れた。「どこかで見た光景だな」と思った瞬間に 自分の子供の頃に戻り、大人たちに怒られないように少し緊張しながらじっとお湯に浸かって眺めている子供の頃の感覚に戻り、昭和時代にタイムスリップしたようだった。きっとタイムマシーンに乗って過去に行ったらこんな感じかもしれないと思った。そこで街や人と出会い、過去や未来に行くことのできる「タイムマシーン」をテーマに展開を考えた。

コロナ禍、戦争、環境問題、仮想空間など生きることに新たな意味と価値観を見出さなければならない時代に、過去だけでなくこれからの未来に必要なものが、この青森と青森人の中にあることを知った。これから日本人が生きるための手がかりになるコトやモノがこの青森の地に点在しており、ピンクをキーワードに過去や未来、そして現在を感じながら忘れていた何かを見つけ、これからどう生きていくのかを考えることができる作品にしたいと思っている。

コロナ禍、戦争、環境問題、仮想空間など生きることに新たな意味と価値観を見出さなければならない時代に、過去だけでなくこれからの未来に必要なものが、この青森と青森人の中にあることを知った。これから日本人が生きるための手がかりになるコトやモノがこの青森の地に点在しており、ピンクをキーワードに過去や未来、そして現在を感じながら忘れていた何かを見つけ、これからどう生きていくのかを考えることができる作品にしたいと思っている。



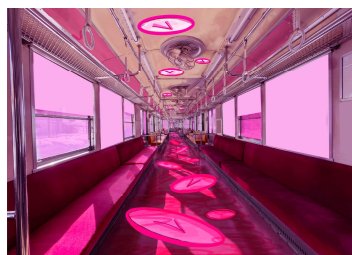
原 高史 写真：望月孝

**プロフィール** | 1968年東京都生まれ。多摩美術大学絵画科油画専攻大学院修了。現代美術家。東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科教授。90年代後半よりインスタレーション、プロジェクト、絵画作品を美術館などで発表。2000年から文化庁在外研修およびポーラ美術振興財団在外研修にてドイツ・ベルリンに滞在。主な活動として、地域の人々とのコミュニケーションを通して得られた「ことば」を絵とともにパネルに描き、歴史的建物や地域一帯の窓をピンクで埋め尽くすプロジェクト「Signs of Memory」を展開。デザインワークでは、デザイン監修・企画・ロゴ・サイン制作を行う。

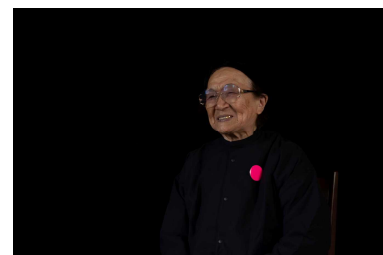
## 【実施イメージ】



弘前れんが倉庫美術館 外観イメージ



アート列車 車内のイメージ



インタビュー映像のイメージ

## 開催概要

- ・企画名 青森をアートでたどるプロジェクト  
原 高史〈AOMORI MAPPINK MEMORY「記憶の未来」〉
- ・会期 2022年9月14日(水)―11月13日(日)
- ・会場 弘前れんが倉庫美術館、弘南鉄道 弘南線 車両及び主要駅(弘前駅・平賀駅・黒石駅)ほか
- ・時間・休日・料金 各開催地の営業日時・運行状況・料金に準ずる
- ・開催地 青森県弘前市、黒石市、平川市、田舎館村
- ・周遊チケット

**弘南鉄道弘南線 1日乗車券 + プロジェクトの特別冊子付き**  
**“わのバス MAPPINK TICKET” (1,100円) 販売**  
“わのバス”持参で弘前れんが倉庫美術館が100円引きなど特典多数

※アート列車の運行は1日9往復を予定 \*車両点検で運休となる日がございます。  
※電車の最新の運行状況は弘南鉄道 Twitter (@konantetsudo) で確認ください。

- ・周遊チケット購入先：
  - 弘南鉄道 弘南線の駅窓口(弘前/弘前東高前/平賀/津軽尾上/黒石)
  - CAFE & RESTAURANT BRICK(弘前れんが倉庫美術館 カフェ・ショップ棟)
- ・WEB URL <http://www.nanjo.com/>
- ・ディレクター 南條 史生
- ・アーティスト 原 高史
- ・主催 青森県
- ・協力(予定) 弘前市、黒石市、平川市、田舎館村、弘前れんが倉庫美術館(指定管理者・弘前芸術創造株式会社)、弘南鉄道株式会社、青森県立黒石高等学校情報デザイン科、弘前 BRICK 株式会社、株式会社中川ケミカル
- ・連携企画 弘南鉄道沿線風景 2022 高校生による「記憶の未来」
- ・企画制作 エヌ・アンド・エー株式会社、株式会社桑原商店
- ・アクセス
  - 弘南鉄道 弘南線 ―JR 奥羽本線「弘前駅」より乗り換え
  - 弘前れんが倉庫美術館
    - ・JR 奥羽本線「弘前駅」より
      - ―弘南バス・土手町循環 100円バス 約9分
      - 「蓬莱橋」下車、徒歩 約5分
      - ―車 約7分
    - JR 奥羽本線「弘前駅」
      - ・青森空港より 一車 約60分
      - ―弘南バス(弘南バスターミナル行き) 約60分
      - ・JR 東北新幹線 新青森駅より
      - ―JR 奥羽本線 約40分「弘前駅」下車

### 弘前れんが倉庫美術館 展覧会情報

「もしも、奈良さんの展覧会はできませんか？」奈良美智展弘前 2002-2006 ドキュメント展

会期	2022年9月17日(土)～2023年1月29日(日) 予定
休館日	火曜日(12月26日(月)～1月1日(日)は休館)
開館時間	9:00-17:00(入館は閉館の30分前まで)
住所	青森県弘前市吉野町 2-1

### 本件に関する問い合わせ

広報担当：エヌ・アンド・エー株式会社 広報：鎌倉/竹ヶ鼻 TEL 03-6261-5784 | E-MAIL [press@nanjo.com](mailto:press@nanjo.com)